

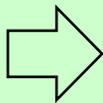
地域の合意に基づき中心的担い手として農地保全に努める農業法人 ～（株）JA名古屋ファーム（愛知県名古屋市）～

経営体の概要

平成24年

基幹作物：水稲

経営面積：296ha(受託面積)



令和3年

基幹作物：水稲、もち菜、スイートコーン

経営面積：291ha（うち受託面積：112ha）

取組の経緯と経営転換のポイント等

名古屋市南陽町は国営事業等の実施で用水が安定供給されるほか、支線水路のパイプライン化により生活排水の流入が減少し水質の改善が図られ、安定した農業生産が維持されている。同地域では、ほ場整備事業が昭和40年代に実施され、その土地改良区単位での共同作業や大型機械の共同利用が進められたが、農家の兼業化が進んだため南陽町全域のほ場を集団化し、水稲基幹作業を南陽町農作業受託部会（JAなごやのJA直営型受託作業部門と農作業受託組織）が一括して担うようになった。その後、「JAが地域農業を維持してほしい」との地域の期待に応えるべく、平成28年にJA直営型受託作業部門から法人化した（株）JA名古屋ファームが地域の中心的担い手となり、地域の農地保全や安定した農産物の生産などに取り組んでいる。

営農改善のポイント

①土地利用調整

農地中間管理事業制度の発足を契機に、市・農業委員会・JA・地元土地改良区が協力し地元の合意形成を行い、地域農地の約6割が（株）JA名古屋ファームに集積されている。今後も利用権設定を推し進め、地域農地の保全に取り組んでいきたいと考えている。



水稲の収穫

②省力化

南陽町のほ場を集団化し、大型機械を活用して地区全体の水稲基幹作業を担うことで、効率的な作業を実施している。レーザーレベラーで田んぼを均平にした後、不耕起V溝直播栽培技術を用いて、農薬使用の半減、コスト削減及び作業の平準化を図っている。



レーザーレベラー

事業概要

事業種：国営総合農地防災事業

関係市町：岐阜県岐阜市外2市2町及び

愛知県名古屋市外12市5町

受益面積：10,139ha

事業期間：平成10年～令和9年

事業目的：農業用排水施設の機能回復

主要工事：頭首工改修 1箇所 用水路改修 L=32.4km

排水路改修 L=27.3km

位置図



<問い合わせ先>

東海農政局

農村振興部農地整備課

課長補佐(競争力強化事業推進)・営農指導係

電話：052-223-4638

(令和3年度調査時点)